プログレスレポートのレジメについて

研究はまだ進んでいないと思います。プログレスレポートのレジメは研究計画を出しましょう。

研究計画書

研究計画書とは，実際の調査・実験によって「問い」の答えに迫る前に， その研究自体の説明と，どのように答えにたどり着いていくのか，計画を示すものである。 研究計画書では，先行研究・事例をふまえて，研究のオリジナリティーや重要性を示すとともに、実行可能性も示さなければならない。

研究計画書の作成において重要な点は主に 3 点

●行う研究の重要性を先行研究・事例から具体的に示す

研究の重要性はその根拠を明確に示すことで説得力が増す。今までどのような研究事例が存在したのか，明らかになっている（解決している）点，明らかになっていない（解決されていない）点は何かを明確にすることで，重要性を客観的に示すことができる。

●研究の目的を明確にする

ほとんどの場合，研究全体で何を明らかにしたいのかを示す「問い」の答えがその目的となるので，研究計画書の中でその問いを示し，研究の目的（何をゴールとするのか）を明確にしよう。

●研究の実行可能性を示す。

重要な研究でも実行できなければ，その研究計画書の価値は下がってしまう。研究手法を具体的に示し，その研究が実行可能で目的に到達できることを示そう。

研究の目的・意義

研究テーマの中から，設定した「問い」とその意義について示す。問いを掘り下げ，この研究で何を明らかにしたいのかを示そう。また 以下の点を参考に，この研究に取り組む意義について述べよう。

・研究テーマについて現時点で何がわかっているか？
・現時点でわかっていることについて，不足事項や問題点は何か？
・だれかがまったく同じ研究を行っていないか？
・これから行う研究と関連することを，だれがどのように調査しているか？
　→過去の調査方法も示し、次に自分で示す調査方法へとうまく導こう。
・今までに行われている研究・調査とどのような関係があるのか？
・この研究を行う前とあとで，どのような変化が期待されるか示そう。

最後に，この「問い」に対する仮説を述べよう（スペースがあれば，その根拠も示すとよい）。

仮説

設定した「問い」に対する「答え」の予想を「仮説」という。仮説はこれまでの先行研究・事例をもとに立てなければならない。理由は，これまで自分が得た研究テーマに対する知識や理論を整理し，論を構築できるからだ。また，仮説を立てることでどのような調査・実験を行うべきか見通しを立てることもできる。

研究手法

「問い」に対して，どのような研究手法を用いて調査・実験を行うのか具体的に記そう。 以下の点に注意しながら，実行する研究手法について述べよう。

・研究手法を読んで，読者がその研究を再現できるか
・「問い」に確実に答えられる方法がとられているか
・実行可能な研究手法か（日程や人的資源）
・調査後の分析方法が示されているか →論文の質は分析方法で決まる
・研究に関するリスク管理の認識は十分か？（安全管理，プライバシーへの配慮など）
・研究手法では明らかにならない，研究の限界点について
　→限られた時間と研究資源で研究を行う場合，その研究のみでは研究の目的を達成することが難しい場合が多い。どのような点が不十分であるのか，その理由（時間的な制約や不足している研究資源など）とともに示そう。